

梅雨が明けたのに連日の雨(-_-;)。晴れたかと思いきや半日くらいしかお天気が続かない(-_-;)。我が家で毎年この時期にお目見えする子供用プールも今のところ出番なしです。海水浴にも連れて行ってやりたいのですがこれでは…。かわいそうなので水族館だけには夏の思い出に連れて行ってやりました(^o^)。今年はこれで勘弁してね(^_^)。

発行元：大町デリバリーサービス松尾新聞店

発行枚数：2600部

発行日：不定期 宅配されています信濃毎日新聞・朝日新聞・毎日新聞・産経新聞といっしょにお届けしております。ご意見ご感想お待ちしております！

大町巡拝の旅 『仁科三十三番札所めぐり』

第二回目となりました『仁科三十三番札所めぐり』ですが、今回は一番最後の札所の『三十三番 六角堂』と現在は廃寺となってしまった『四番 西岸寺』について記載となります。ミニコミの前々回にも記載しましたが、仁科三十三番札所は現在の市町村でいうと、大町市大町に十一カ所、社五カ所、平八カ所、常盤二カ所、八坂一カ所、池田町四カ所、松川村二カ所となっております。

札所になっております寺堂には、詠歌が額にして掲げられており、たいていの歌には寺堂の名称や、そこの地名が織り込まれ、それに合わせて仏の功德や信仰のすすめが歌われています。（おそらくは西国三十三番などのお遍路さんが歌うような哀れっぽい節回しだったのではないかとされています。）

<三十三番札所 六角堂>



本尊の木造聖観音立像（大町市有形文化財）は、像高107センチメートルで、まさに元文当時の本尊です。背面下部には「万躰之内 木食山居昨」と墨書銘があり、この像の作者が弾誓寺六世木食山居故信法阿の万体仏造仏の一つであることがわかります。万体仏はきわめて簡略な、そして小さなものが多い中で、この像と池田町浄念寺（二十六番）の如意輪観音坐像は、傑出した本格的な造像で、作者の力量を存分に発揮した代表作といっているといわれています。また、この像は、秘仏として大切にされてきたせいでもあります。いささかの損傷も見当たらないそうです。

『めぐり来し 御寺も三十（みぞち） みなみ原
千草の罪も 露と消へなん』

六角堂、現在の曹洞宗南原山長性院。仁科氏の居館のすぐ南方、現在の大町高校のあるあたりに、天文の頃 開創されたと伝えられ、仁科氏の菩提寺だったと考えられる長性寺という寺があった。その寺城の一角に珍しくも六角のプランをもつ堂があったが、これが六角堂でした。仁科氏の滅亡とともに長性寺もやがて廃されたが、六角堂は残りました。そして宝永三年（1706）に、傷んだ建物の大修理をした際にプランを改変して普通の建物のように四角に直したが、六角堂の名は残りました。いまはバイパス道路のために、少し取られて短くなってしまった参道の両側には百番観音やその他の石仏が立ち並び、その奥に堂を望むのは、よい景観であったといわれています。

本尊の木造聖観音立像（大町市有形文化財）は、像高107センチメートルで、まさに元文当時の本尊です。背面下部には「万躰之内 木食山居昨」と墨書銘があり、この像の作者が弾誓寺六世木食山居故信法阿の万体仏造仏の一つであることがわかります。万体仏はきわめて簡略な、そして小さなものが多い中で、この像と池田町浄念寺（二十六番）の如意輪観音坐像は、傑出した本格的な造像で、作者の力量を存分に発揮した代表作といっているといわれています。また、この像は、秘仏として大切にされてきたせいでもあります。いささかの損傷も見当たらないそうです。

<四番札所 西岸寺>

『 苦しみの 海を渡して 彼の岸に
着くは誓（ちかい）の 舟とこそ聞け 』

西岸寺は池田町の浄念寺の末寺で、八日町と五日町の角の東北の、東の裏道（今の東町）から少し奥まった所にあった寺です。「信府統記」には「当時天文年中二建 其後焼失」とあります。「大町組神社仏閣帳」に記されている建物は焼失後の再建です。この寺も明治維新後の（注）廃仏毀釈で廃寺の厄にあいました。最後の住職泰全（たいぜん）は還俗して田島檀司となり、明治五年まで寺小屋を開いていたそうです。その後、本堂は美麻新行地区に移築され、公民館となりました。この新行公民館も改修されて景観を新たにしましたが、なお寺院らしい姿は十分に留めており、内部には須弥壇もそのまま残されています。

西岸寺の本尊阿弥陀如来像の行方は不明ですが、如意輪観音像は大



原の堂に、また木造青面金剛童子立像は、寺のすぐ北にある八日町の毘沙門堂に安置されています。

現在の新行地区公民館の画像。

参考資料『仁科三十三番札所めぐり』篠崎健一郎著

（注）廃仏毀釈

日本において明治維新後に成立した新政府が慶応4年3月13日（1868年4月5日）に発した太政官布告「神仏分離令」、明治3年1月3日（1870年2月3日）に出された詔書「大教宣布」など神道国教・祭政一致の政策によって引き起こされた仏教施設の破壊などを指す。

神仏分離令や大教宣布は決して仏教排斥を意図したものではなかったが、結果として廃仏毀釈運動（廃仏運動）とも呼ばれる民間の運動を引き起こしてしまった。神仏習合の廃止、神体に仏像の使用禁止、神社から仏教的要素の払拭などが行われた。祭神の決定、寺院の廃合、僧侶の神職への転向、仏像・仏具の取り壊し、仏事の禁止、民間への神道強制などを急激に実施したために大混乱となった。明治4年（1871年）ごろ嵐が収まったが、長い間回復は困難であった。例えば千葉県鋸山には五百羅漢像があるが、すべての仏像が破壊された。現在は修復されているが、羅漢像には破壊された傷跡が残っている。また、公爵や侯爵などの華族の墓地も仏教方式から神道方式へと強制的に変更させられた。王政復古の号令のもとに明治政府は神政政治を目指し、神道を国家統合の基幹にしようとした。一部の国学者主導のもと仏法は外来の宗教であるとしてそれまで大きな勢力を持つ仏教勢力の財産や地位を剥奪し、弱体化するように誘導した。江戸時代までは寺院法度によって禁止されていた僧侶の肉食・妻帯を明治政府は「肉食妻帯勝手なるべし」と号令し、戒律を犯させることで僧侶を破戒させようとした。また僧侶の下に置かれていた神官は政府の威をかけて仏教の全てを否定し破壊する「廃仏毀釈」運動を起こし、混乱にまぎれて寺院を破壊し、寺院の土地を接収した。また僧侶のなかには神官や兵士となるものや寺院の土地や宝物を売り逃げていくものもいた。現在は国宝に指定されている興福寺の五重塔は、明治の廃仏毀釈の法難に遭い、わずか2円（2006年現在の価値で約5万円）で売りに出され薪にされようとしていた。大寺として非常に広大な伽藍を誇っていたと伝えられる内山永久寺に至っては徹底的に破壊しつくされ、その痕跡すら残っていない。



『食品のエコ容器』

食品などの容器包装が家庭ゴミ全体の約6割を占めており、食品業界は地球環境に配慮したエコ容器の採用を進めています。最近話題になったのが、たれが入った小袋も表面を覆うフィルムもないミツカンの納豆容器。同社は、「納豆を食べた際に出る家庭ゴミを、年間で45トン削減できる」としています。ゼリー状のたれと、納豆の乾燥を防ぐ技術が「金のつば あらっ便利！」シリーズの「におわなっとう」と「超やわらか納豆 とろっ豆」に使用されています。使い捨てが当たり前だったカップめんの容器にも変化が起きています。日清食品では、洗って繰り返し使える専用カップ（プラスチック製と耐熱ガラス製の2種類）と、詰め替え用のめんを発売しました。ネスレ日本は、瓶入りインスタントコーヒーの詰め替え用袋タイプの製品を、紙製の円筒形容器に変更しました。同社従来の袋タイプ（同サイズ）と比べ、使用するアルミニウ



ムを30%以上削減できたこと。また、容器に使われているプラスチックはリサイクルが可能です。こうした取り組みを環境保全へと確実につなげるには、消費者の側にも環境負荷の少ない容器を見分ける目が求められています。



今年は「若一王子神社例祭」といい「やまびこ祭り」といい天気が悪く、主催側・参加側ともにさんざんでしたね！ご苦労様でした。。。このミニコミを作っております自分も今年は稚児行列に参加させて頂きました...駅前から子どもと歩いておりますと沿道で見ている方々のいろんな声が聞こえてくるもんなんです、でも、「参加してる誰かの行いが悪いんだ！」という声が聞こえた時には正直ムカッてなりました...。怒ろうにも誰が言ったかもわからず怒るに怒れなくて一人でムカムカしてましたけどね(-_-;)雨でしたけど松尾新聞店で配布させて頂いたウチワは効果ありましたでしょうか？(^_^;)。また、機会があれば、何か他の物や形で皆様方のお役に立ちたいと考えております。



新聞に載らない内緒話！

案山子残照

奇妙な人物である。

ビート小林。略歴は「前世紀生まれ。年齢不詳。駐留軍基地と米国で下級労働者、パーテンドー職などを経て広告業界へ。博報堂、電通（なぜかこの時点から一流の職場を得る。そのきっかけは謎である）勤務後、独立」とおおむねこんな生き方である。桜と案山子（カカシ）を追いかけるカメラマンで、コピーライター。生家である教会（クリスチャンだったんだ）にはおごそかな十字架が建っている、とか。

酔った勢いで私生活までじっくり聞いたが、記憶の彼方で、とにかく風変わりなおっさんであることは間違いない。

一昨年、連載記事を仕立てる都合で彼と、3泊5日の旅をした。青春18切符を駆使し、車中泊を繰り返し、可能な限り出費を抑え極限に挑む？「同行二人」であった。一人1万円少々の運賃で小豆島、南紀を回った。立ち食いそば、「吉牛」の連発、安酒場で浴びるほど飲んだが、財布はほとんど傷まなかった。「青春」復活であった。

以後、付き合いは続いたが、先日メールをいただいた。本を出版したという。過去にも数冊出しているのに驚くにはあたらないが、今回は写真集、それも「案山子」ということでさっそく一冊送ってもらった。実は先の旅行も、彼の案山子コレクションに協力する形で行われたのである。その時の写真も何枚か採用されている。

「お上社会のこの国では、お上どころか右を見ても左を見ても『百年に一度』を枕言葉にした文言が声高に流伝されている。そもそも百年前を未体験の人々に、詭弁（きべん）のごとく唱えられて、虚実皮膜さが漂い空疎感のみがいや増す国、ニッポンである」。

「戦後の日本社会の空気がすっかり入れ替わって、ある限界に達している。そんな人間界の下、もはや絶滅危機種？に近い田んぼの案山子たちの眼差しの先には、何があるのだろうか」。

いいでしょう、このプロローグ。題して「カカシ・バイブル」（東京書籍刊、1600円）。7年間案山子を追いかけて、昨年だけでも40日40夜、全国110*を走破（そのうち、私も5日間関わっている）、掲載案山子は160体にもものぼる写真集になっている。

下町育ちの私には、案山子のある風景は縁遠いものだが、ふっと車窓に映るあの人影は昭和の原風景である。無言の案山子たちのなんと表情豊かなことか。夕日の沈む、地平線にぼつんと立つ一本足。家々に明かりが灯り、食卓を囲む子どもたちの声が聞こえてきそう。ノスタルジーではあるが、今、立ち返らなければならない、後ろ向きではないノスタルジーではないか、なんてしみじみ思いたくなる。

裸にて 生まれてきたのに 何不足――。

（有）大町デリバリーサービス松尾新聞店

大町市大町2675-7（ハローワーク大町すぐ近く！）

電話：フリーダイヤル 0120-030553

FAX 0261-22-8402

HPアドレス : <http://shimbun.web.fc2.com/>

